

九州工業大学学術情報リテラシー教育体系表

①

「高等教育のための情報リテラシー基準 2015年版」国立大学図書館協会教育学習支援検討特別委員会（2015.3）を基に、本学の情報リテラシー教育にカスタマイズして教育体系表を作成した。

6つの行動指針
プロセス



発展 博士課程前期 博士課程後期	研究テーマを設定し、学術的な論文の作成・発表ができる					
	研究課題の設定 自らテーマを設定し、仮説を立てることができる。	高度文献探索 信頼性の高い情報が選択できる。プロセスのモニタリングができる。	専門情報入手 先行研究を入手できる。必要に応じてILLを利用できる。	批判的分析 情報を評価・分析できる。文献管理ツールを活用できる。	理論統合 得た情報・データを知識として、再構築・再構造化し説明できる。	論文作成・発信 学術論文を執筆し、発表することができる。
応用 学部3・4年	与えられた課題について自らテーマを設定し、意見を含んだレポート作成・発表ができる					
	課題理解 課題に沿ったテーマを設定できる。自分のテーマを他の人に説明できる。	計画的探索 信頼性の高い情報を説明できる。複数の情報源から検索できる。	資料収集 課題に応じて適切なDBを選択できる。ブール演算子を利用できる。	要点整理 入手した情報の正確性を評価できる。	知識整理 情報を比較し、客観的に選択できる。情報を意味付け、説明できる。	レポート作成・発表 根拠を示して、自分の主張を論理的に述べることができる。
基礎 学部1・2年	与えられたテーマ・情報源をもとにレポートを作成できる					
	テーマ確認 課題の意図を理解できる。キーワードを3つ以上考える。	情報の種類 情報の種類や特性を説明できる。図書館サービスを利用できる。	基本検索 OPACで指定の資料を検索できる。参考文献リストの読み方がわかる。	簡易整理 要旨をまとめることができる。情報を取捨選択し、整理できる。	理解まとめ 入手した情報を比較して、自らの意見の類似点や相違点を説明できる。	レポート作成 レポートの一般的な体裁にそって、まとめることができる。

九州工業大学学術情報リテラシー教育体系表 ②

②では①の体系表に合わせて、実施している授業・講習会・イベントを列記した。

6つの行動指針
プロセス



	課題認識	探索計画	入手	評価・整理	比較検討	活用・発信
発展 博士課程前期 博士課程後期	研究テーマを設定し、学術的な論文の作成・発表ができる					
		個別データベース講習会：Scopus	個別データベース講習会：SiVal			
	個別データベース講習会：Leap Space	個別データベース講習会：JdreamIII	文献管理ツール講習会：Mendeley			
応用 学部3・4年	与えられた課題について自らテーマを設定し、意見を含んだレポート作成・発表ができる					
	オーダーメイド講習会：文献調査時のテーマ設定	「情報リテラシー講座中級」工学部・情報工学部4年（全1回）	オーダーメイド講習会：文献レビューと管理	オーダーメイド講習会：生成AIとの付き合い方		
		「知能制御応用」：知識を広げる情報探索工学部3年（全1回）			LSSイベント	
基礎 学部1・2年	与えられたテーマ・情報源をもとにレポートを作成できる					
	「人文社会基礎」工学部・情報工学1年（全1回）					
		「情報工学概論」	情報工学1年（全1回）			
	ガイダンス 毎年4月2週間	初級動画①-⑥			LSSイベント	